(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2007-236876
(P2007-236876A)
(43)公開日　平成19年9月20日(2007.9.20)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A45C 13/00	(2006.01)	A45C 13/00	M	3B045

審査請求 未請求　請求項の数 3　書面　（全 4 頁）

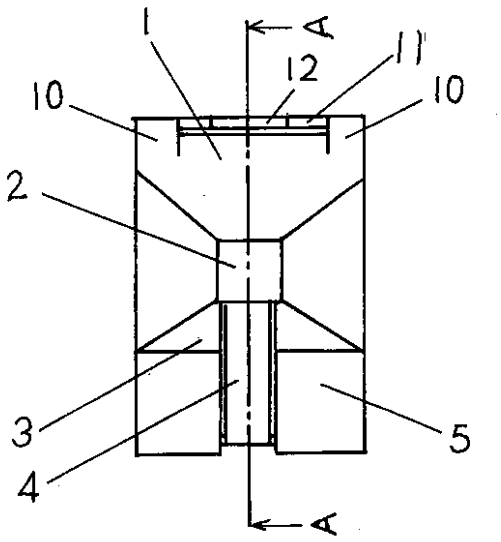
(21)出願番号　特願2006-100102 (P2006-100102)
(22)出願日　平成18年3月6日 (2006.3.6)

(71)出願人　503157489
川口　芳弘
東京都東村山市多摩湖町４丁目２２番地２３号
(72)発明者　川口　芳弘
東京都東村山市多摩湖町４丁目２２番２３号

Fターム(参考)　3B045 AA51 CE09 DA22 EA06 EB17 GA04 GC02 GD04

(54)【発明の名称】離脱防止機能を持つ着脱可能な携帯品懸架装置

(57)【要約】
【課題】一般的に小型携帯機器類の携帯保持具は個々の製品に対して各メーカーが簡単な携帯ケースをサービスの範囲で製品梱包に同封する程度の対応であり、帯同に伴う携帯機器の安全、損傷防止、遺失事故、等の問題は、携帯機器の利用者のリスクに依存しているのが現状である。
【解決手段】斯かる条件から、本発明による小型携帯機器類の懸架着脱操作の簡便性、並びに、懸架状態の維持と安全性を保障する機構構造により、多様な携帯機器や用品等に対する汎用性を満足させる懸架装置を提供するものである。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
懸架フックを装備する構造体と該懸架フックを貫通交差させる切欠部構造を持つ構造体を蝶番機能により連結して構成する機構構造により衣類等に用いるベルト等を挟持する機能を構成し、該懸架フックに懸架する携帯物による該ベルト挟持機構の閉鎖状態を維持する機能を構成し、且つ、該懸架フックに懸架された携帯物の該フック開口部よりの逸脱を阻止する該フックと交差する機構構造と一体機構構造により構成する該フック開放部を閉鎖するフラップ構造を、該蝶番機構に併設して構成する手持小物機器等携帯品等の懸架装置。
【請求項２】
請求項１に述べる該懸架物の該フックからの逸脱を防止するフック開放部フック先端の被閉機構構造と該フックと該フラップの交差機構構造。
【請求項３】
請求項１に述べるベルト等を挟持する機能構造に於けるハンガーフックに携帯用品等を懸架する事によりベルト等を挟持する該機構の開放を阻止する機能構造。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、着衣保持に供されるベルト等、以下、ベルトと呼ぶ、に装着し携帯品を懸架保持する携帯品懸架装置に関する。
【背景技術】
【０００２】
携帯電子機器、小型カメラ、小物道具、等、以下携帯機器等と総称する、の携帯時の紛失や遺失等を防止する為、先端にフックを装着した紐や、鎖、等により連結保持する方法や、バッグに収納し必要に応じ携帯品を取り出す等の方法が取られている。
【０００３】
しかし、現存する機構構造の小物懸架装置は、懸架、又は、連結状態の不安定性から該懸架物の落下に因る携帯品の遺失、損傷、並びに、破損を完全に防止できる安定した懸架状態の維持、使用時の懸架物の着脱の簡便性、並びに、懸架状態の常時体感確認性、等、総合的な機能を満足させる機能構造を具備していない事により落下に因る紛失事故が発生している。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
発明が解決しようとする課題は、携帯物懸架装置、並びに、携帯物使用時の使用者自身の単純操作に依る着脱性を満足させる機構構造の具備と、懸架物自体の安全且つ安定した懸架状態の維持状態の維持機能を保証すると共に、使用者本人の意思による懸架物の着脱行動に対する簡便性を兼備する機能と構造を具現化する事にある。
【０００５】
又、前述の懸架装置自体の容易な着脱性に加えて懸架物の懸架状態に於ける該装置自体の装着状態の非人為的な解除の防止条件を満足する機能構造を兼備した機構構造を提供する事にある。
【課題を解決する為の手段】
【０００６】
本発明は、課題に述べた問題点を解決する手段として装置自体の着脱性の抜本的向上、並びに、被懸架機器類の人為的な着脱操作外に於ける懸架装置からの被懸架物の離脱を許容しない装置を装備し、且つ、操作の単純化と装置の廉価を満足させ、加えて、該装置の対人障害防止に関する信頼性を満足させるものである。
【０００７】
本携帯機器等の懸架装置は、本装置自体のベルトへの着脱性を満足する機構構造として

図１に示す懸架フックを併持するベルト挟持体７、並びに、懸架フック４が貫通出来る穴６を持つベルト挟持体５を設け、更に、該フック機構４と交差するフックの開放部を封鎖し、且つ、周辺部をベルト挟持体５の表面に接する構造に設定したフックカバー２を設けた機構構造を蝶番１０にて連結する事により携帯機器等の懸架装置を構成し、課題の要求条件を完全に解決させるものである。

【発明の効果】

【０００８】

本携帯品懸架装置は、ベルト挟持体の空間８にベルトをセットし、ベルト挟持体５をセットし、懸架フック４が挟持体５の穴６から突き出た条件状態で携帯品を懸架フック４に懸架する事によって、ベルト挟持体５と７は、ベルトを挟持した状態で該懸架物によりロックされた条件となる。

【０００９】

この条件に於いて、フックカバー２を所定の位置に閉じる事によって、フックカバーが構成している表面の傾斜により、例え、懸架物に対して、フック機構からの逸脱外力が加わったとしても該フックカバー３の部分の表面とフック４の内壁が交差して構成する楔形状によってフックカバー２自体とベルト挟持体５の表面に押し付ける外力に変換され完全に退路を閉鎖する現象が発生し、懸架物の懸架フックよりの逸脱を完全に阻止する事になる。

【００１０】

被懸架物を懸架装置から取り出すには、単純に該フックカバー２をレバー１にて引き上げ懸架フックより懸架物を取り出す事が出来る。

【発明を実施する為の最良の形態】

【００１１】

携帯品懸架装置は、可能な限り小型軽量を図り、且つ、操作の単純性を満足させる機構並びに、機構構造の適用を可能とする以下の図面に示す機構構造を推奨する。

【図面の簡単な説明】

【００１２】

【図１】装置の正面図を示す。

【図２】装置のＡ－Ａ断面図を示す。

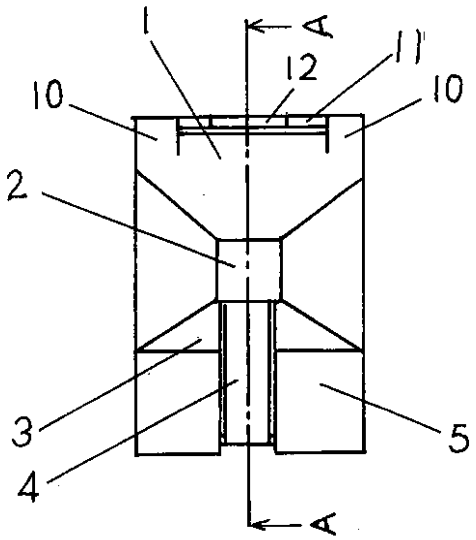
【図３】装置の背面図を示す。

【符号の説明】

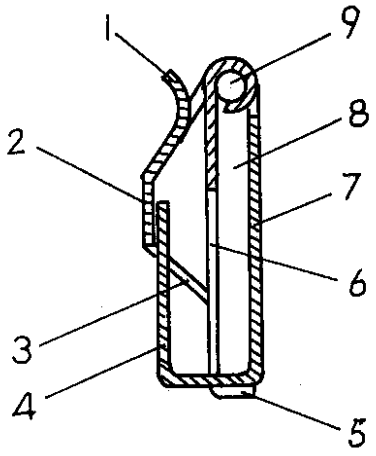
【００１３】

１　フックカバー開放レバー
２　ハンガーフックカバー
３　懸架物逸脱防止機構部
４　ハンガーフック
５　ベルト表面挟持機構
６　ハンガーフック通過穴切欠部
７　ハンガーフックを持つベルト挟持体
８　ベルト挟持空間
９　蝶番軸
１０　ハンガーフック開放部カバー開閉用蝶番機構
１１　蝶番軸固定部
１２　ベルト挟持体蝶番部

【図１】



【図２】



【図３】

